

立川市自転車施策推進協議会 議事要旨（要点）

会議名称	令和５年度第２回立川市自転車施策推進協議会
開催日時	令和６年３月２７日（水） 午後２時から午後３時４０分まで
開催場所	立川市役所 101 会議室
次第	１ 立川市第２次自転車活用推進計画の策定について ２ 立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について ３ 第５期立川市有料自転車等駐車場指定管理者の選定について ４ その他
配付資料	資料１-１ 立川市自転車活用推進計画の進捗概要（令和２年度から令和５年度までのまとめ） 資料１-２ 立川市自転車活用推進計画の施策の実施状況（令和２年度から令和５年度まで） 資料１-３ 立川市自転車活用推進計画の施策の評価指標における達成状況（令和２年度から令和５年度まで） 資料２ 立川市第２次自転車活用推進計画の方向性について 資料３ 立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について 資料４ 第５期立川市有料自転車等駐車場指定管理者の選定について
出席者	〔委員〕 岩下光明、佐藤三男、大森宣暁、古倉宗治、大島武巳、新井和典、田中希依、岩澤貴顕、腰塚史子（代理）、門目昌宏、田中光徳、佐藤篤史、村上隆秀 〔事務局〕 野澤英一（まちづくり部長）、大和田智也（交通対策課長）、有馬理（自転車対策係長）、野崎好弘、森大介、田村信行（自転車対策係）
公開及び 非公開	公開
傍聴者数	２名
１ 立川市第２次自転車活用推進計画の策定について	
委員	事務局
・実施した施策に対する効果の数値があれば教えてほしい。	・ヘルメット着用については、令和５年度に初めて駐輪場の利用者アンケートを取ったところ、市内有料駐輪場全体の利用者に対していう着用率７％台だった。この数値がヘルメット購入補助の事業実施により、どの程度増えたかは前年度の数字がないのでわからないが、今後の推移をみていきたい。 ・ナビマーク・ナビライン設置の効果については、事故率との関係を東京都が見える化するような話があるので期待しているところである。
・コロナ禍により自転車の利用が減ったとしているが、ちょうどこの時期に電動キックボードのシェアが始まっており、この関連性の有無をどう考えているか。	・令和２年度に自転車利用が減ったことは、電動キックボードが関係ないとは言えないが、コロナ禍による人流の減少が大きいと考えている。
・電動キックボードも自転車と同じような位置づけで取り組んでいく意向があるのか。	・電動キックボード等の新たな電動モビリティについても検討する必要があると考えている。

・シェアサイクルはGPSの機能もあると思うので、健康ポイント事業との連動の施策とか、自転車がどう使われているかという数値的なデータもあればよいと思う。 ・現計画は、施策の基本方針「Fun To Cycle」を実現することによってQOL（Quality of Life）の向上につなげるということだが、目標設定としては、例えば利用率の向上、自転車の外出回数、アンケート調査等、経年的に測定できるとよいと思う。 ・国の自転車活用推進計画には、自転車通勤の比率、何%目標と書かれている。市民に分かりやすい目標設定、チャレンジ的な数字の設定というのもあり得ると思う。 ・具体的な成果指標を測定するのにお金かかりたりするので、例えば市民アンケート調査みたいなもので細かく聞く方法もあると思う。 ・新たな計画によって何を実現したいか、今までと違った売りとなるものを持った方がよいと思う。 ・脱炭素、健康向上、この2つが大きな自転車の切り口になってきている。自転車による二酸化炭素削減、これは計算方法もあり、八王子市や茅ヶ崎市で出しており、ガソリン代や医療費を年間どれぐらい削減できるとか、具体的な数値が出ると分かりやすくなってくる。 ・総論と各論がどう結びついているか、あるいは各論の目標値を実現するための施策はどう結びついているか、体系とかストーリー性があると市民がわかりやすいと思う。 ・提案として、市長に計画書の序文を書いてもらったかどうか。市は目標を持って行っていくので、市民の皆さんもぜひ自転車を活用し、自転車のまち立川を推進していただきたい、と熱い思いの呼びかけを検討してほしい。 ・「Fun To Cycle」が前回のとき出てきたのは、事務局の若手の方が考えてくれた記憶がある。 ・7ページ目に自転車活用推進計画のさらに前身の第3次自転車総合計画のときの目標値が書いてあり、自転車の分担率とか事故件数という指標も入っていた。何で前回なくしたか、昔の議事録でも引っ張り出してきて、なぜなくしたか	・健康事業との連携等についても検討していきたい。 ・シェアサイクルのデータについては、事業者から基本的な分析結果は提供されるが、GPSデータを個別に切り出すとなると有料になる。 ・QOLの向上等わかりにくい部分とか、次期計画に当たっての改定の売りとか、健康、脱炭素、総論と各論の結びつき、ストーリーがより市民に分かりやすいようにというところ、いずれについても意見を踏まえ、今後協議を進めていきたい。 ・具体的に見える分かりやすい指標がよいと思うので、アイデアをいただければと考えている。 ・市長も替わっているので、どういったことができるか調整を進めたい。 ・現計画の議論も踏まえ検討していく。
---	--

思い出して、今後どうしていくか検討してほしい。 ・資料1の例えば定期利用抽選倍率目標 2.6 倍とか、何を根拠に 2.6 にしたのか思い出せないところもあるので、慎重にじっくりと検討してほしい。 ・次期計画で学校における自転車安全教育が定めているのはわかるが、現状では小学校と中学校で実施している。高校生については、通学で使っている割合も多いと思うが、どのように考えているか。 ・東京都は、高校生を対象にしたアプリを使った取組を始めているので、その辺をどのように考えているか。 ・、自転車保険の加入について、どこで加入することができるのか、そういう情報提供しているのか。自転車購入時に自転車屋で加入できるようになっているのか。 ・市内自転車事故件数検証データというのがあるが、これに関しての事故の内容とか、どちらが悪いのか、自転車なのか、それ以外が悪いのか、そういったことを把握しているのか。そうでないと啓発する内容も対象も違ってくると思う。 ・自転車事故 347 件は全部自転車側が原因なのか。 ・車が原因の事故では自転車はどこに気をつけて運転しなければならないのか、歩行者が対象の場合は自転車はどう注意しなければならないのかという啓発も必要になってくるので、そういった部分も含めてこの件数を分析して啓発に努めてくれればと思う。 ・最近茅ヶ崎市で自転車通勤者に、ルールを守るのにどうしたらよいかとアンケート調査をしたところ、例えばなぜ右側通行してはいけないのかとか、何で歩道を徐行しなければいけないのか	・市立の小学校、中学校まではあるが、高校は市立がないので、取り組みが難しい点がある。市でヘルメット補助を始めて、子どものヘルメット購入が多いが、高校生の年代が他の年代に比べて少ない状況なので、意識して啓発していく必要があると考えている。 ・東京都の輪トレというアプリは、取っ付きやすく、小さい子から大人まで、もちろん高校生も含んだ形なので、そういったところを広めていきながら、小中学校で行っている安全教育を高校生にどう発展させていくか検討していきたい。 ・保険加入については、東京都作成のパンフレットを公共施設に置いたり、市のホームページで紹介しており、そこから加入店というのは見ていただく形になっている。 ・自転車屋で購入するときには、保険の案内はしている。 ・令和5年を例にすると、自転車事故 347 件のうち、自転車の操作誤りというのが1位で、その次が安全の不確認となっている。自転車操作の誤りについては、自転車安全利用の啓発をし、自転車の安全不確認については、市の広報紙で特集号を組んで、事故が起こりやすい状況などを啓発している。 ・自転車が絡んだ事故であるが、どこに責任があるかというところまでは反映させた数字ではない。
--	--

かとか、そういうルールの根拠を説明してもらおうというのが圧倒的に8割ぐらいだった。その次は取締りの強化が5割ぐらいという感じだった。ルールだから守れではなく、何でルールを守ったら安全なのかということを理解してもらおうのが大事と思う。 ・次回は8月に協議会があり、それまでに案が出てくるのか。	・次は骨子案の協議となるので、具体的に施策案をブラッシュアップした形で骨組みのところについて意見をいただく。
2 立川市シェアサイクル実証実験の運用状況について	
委員 ・シェアサイクルに関連して、レンタサイクルのT-BIKEはやめるようだが、高松駅のレンタサイクルは継続なのか。 ・高松駅のレンタサイクルは、シェアサイクルに置き換えてもよいのではとも思う。	事務局 ・高松駅のレンタサイクルは、今のところ継続としている。 ・シェアサイクル事業の総括を含め、レンタサイクルの評価も必要と思うので、並行しながら検討していきたい。
3 第5期立川市有料自転車等駐車場指定管理者候補者の選定について	
委員 ・放置対策でこれ以上駅に来てほしくないというのが今まであったかと思うが、大分下火になってきているので、自転車駐車を自転車利用促進あるいは公共交通との連携のための施設と位置づけて、もっと前向きに使ってもらう方向があってもよいと思う。 ・とめたくなる駐輪場というか、駐輪場の機能以外の楽しい機能をつけたりした方がよいかもしれない。 ・利用者の方は管理者が替わっても特に利用に支障はないという理解でよいか。	事務局 ・利用したいと思うような駐輪環境の向上とともに、貴重で高価な土地を駐輪施設として使っているので、有効利用、有効活用のようなことも考えながら進めていきたい。 ・いろんな機器の変更があるので、一部制限がかかるころはあると思うが、基本的には同じサービスが受けられる。 ・基本的には同じサービスだが、QR決済とか、定期利用の更新がウェブでできるという話もあるので、利用環境としては向上すると考えている。
4 その他	
(事務局) 第2次自転車活用推進計画の策定については、本日の意見等を踏まえて内部で調整を進めていきたい。	
担当	まちづくり部交通対策課自転車対策係 電話 042-523-2111 (内線 2285)